

CUSTOMER STORIES

AJA®
VIDEO SYSTEMS

導入事例

NiTRO SHIBUYA



8K 編集室に
KUMO 3232-12G を導入



KUMO 3232-12G で 8K 編集室のシンプルなシステム構築を実現

株式会社日テレ・テクニカル・リソースは取材現場や中継、スタジオ撮影、ポストプロダクションなど、映像制作のさまざまな局面で放送のノウハウを提供している“技術プロダクション”だ。

2019年3月には、NiTRo SHIBUYA に試写室兼用の8K編集室が作られた。

この編集室の4K/8K信号をルーティングするために、32系統の12G-SDI入力と出力を搭載したAJA社のSDIルーター製品KUMO 3232-12Gと、制御用パネルKUMO CP×3台が導入されている。

NiTRo SHIBUYA の8K編集室 KUMO 3232-12G と KUMO CP を導入

株式会社日テレ・テクニカル・リソースは取材現場や中継、スタジオ撮影、ポストプロダクションなど、映像制作のさまざまな局面で放送のノウハウを提供している“技術プロダクション”だ。

5台の中継車、あらゆるメディアに対応した取材クルー、45室の編集室、9室のMAルームを運用し、その高度な機材や設備を生かしてドラマやスポーツ、ドキュメンタリー、報道、情報、バラエティなど、あらゆる番組へ技術を提供。放送局の心臓部であるマスターの運用業務や、同社編集室では報道などの生放送にも直接関わっている。

同社では5年前より“ひとつの流れの中で両方のフィニッシング”をコンセプトに、全室4K対応のスタジオを完備したポストプロダクション“NiTRo SHIBUYA”をスタートさせた。その高い技術力により、放送局だけでなく幅広いジャンルの4K番組でコンテンツの仕上げを担当している。

2018年12月からは4K8K実用放送が始まったことで8K編集の依頼が増え、2019年3月には、NiTRo SHIBUYA に試写室兼用の8K編集室が作られた。

この編集室の4K/8K信号をルーティングするために、32系統の12G-SDI入力と32系統の12G-SDI出力を搭載したAJA社のSDIルーター製品KUMO 3232-12Gと、制御用パネルKUMO CP×3台が導入されている。

8K編集システムには スペックの高い機材を導入

4Kの制作経験を積んできたNiTRo SHIBUYAで最も懸念されていたことは、4Kと同じスピードで8Kの仕上げを遂行できるのかという点だ。この課題はHDから4Kの取り扱いを始めた時にも直面していて、高精細な番組制作でもストレスを感じることなく、制作作業に取り組める編集室が必要とされた。スピード感が重視されるテレビ番組からの依頼が多い同社では、演出に集中しながらも迅速に編集作業を行える環境が求められる。

その結果、8K 編集システムにはスペックの高い機材が導入されることとなった。同社の 8K 編集室では、Blackmagic Design 社のソフトウェア DaVinci Resolve でカラーグレーディングとオンライン編集を行っている。

Panasonic 社製のメモリカード“P2カード”で 8K 番組を納品する場合は、編集終了後に Colorfront 社の Transkoder で P2 カード × 4 枚にデータを書き出し、最終的には Panasonic 社の 8K レコーダー AJ-ZS0580 で再生チェック、納品という流れだ。

8K ソースを KUMO 3232-12G に接続 KUMO CP で入出力信号をリモート制御

本システムでは、DaVinci Resolve と Transkoder からの 12G-SDI クアッドリンク出力、さらには AJ-ZS0580 の 12G-SDI クアッドリンク入力と出力といった、すべての 8K ソースが AJA の 32 入力 × 32 出力 12G-SDI ルーター「KUMO 3232-12G」に接続されており、信号を一括制御している。

8K 編集室の編集卓に設置された AJA の 12G-SDI ルーター用コントロールパネル「KUMO CP」は、ネットワーク接続されており、カリリストやエディターが手元のボタン操作で、マシンルームにある 12G-SDI ルーターの入出力信号をリモート制御するためである。

12G-SDI で入力した信号を複数の出力先にルーティングし、分配する機能を KUMO 3232-12G × 1 台で賄うことができるため、同社の編集室で必要とされていたシンプルなシステム構築を実現した。

販売会社からの勧めで採用が決まった KUMO 3232-12G は、2RU のコンパクトな筐体で、32 系統の 12G-SDI 入力と 32 系統の 12G-SDI 出力を搭載。

信号は、12G-SDI/6G-SDI/3G-SDI/1.5G-SDI をサポートしており、非圧縮を含む SMPTE 準拠の規格、あるいは RAW 4K/Ultra HD 信号もサポートしている。

SDI 信号のグループ化機能により、デュアルおよびクアッドリンクのルーティングに対応できるため、上記のような 12G-SDI クアッドリンクの 8K だけでなく、6G-SDI デュアルまたは 3G-SDI クアッドリンクの 4K/ Ultra HD を扱うワークフローにも最適だ。サイズと容量のバランスを取らなくてはならないポスト / プロダクション、あるいは中継車など、あらゆる映像制作の場に導入しやすい柔軟な製品だ。

KUMO 3232-12G 操作用のコントロールパネル KUMO CP は、Ethernet 経由で KUMO ルーターと同じネットワークに接続されている。このオプション製品を導入するメリットは、コンピューターを必要とせずに、どこからでもルーターをボタン操作で制御できることだ。KUMO CP 1 台で最大 4 台の KUMO ルーターを操作可能だ。

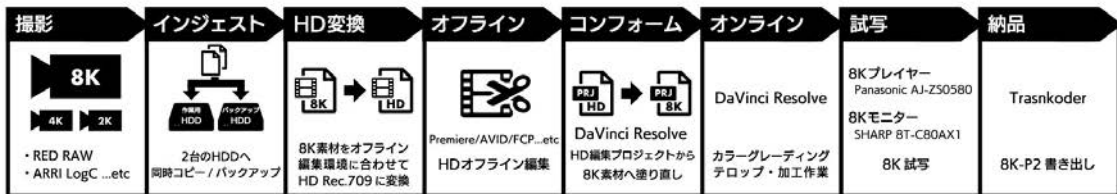
12G-SDI 信号の制御を各編集室から 直感的に操作可能

KUMO 3232-12G と KUMO CP の組み合わせにより、施設内の 12G-SDI 信号の制御を各編集室から製作者が直感的に操作できるようになった。また、複数の 4K/8K ソースをグループ化してボタン 1 つで制御可能となった。

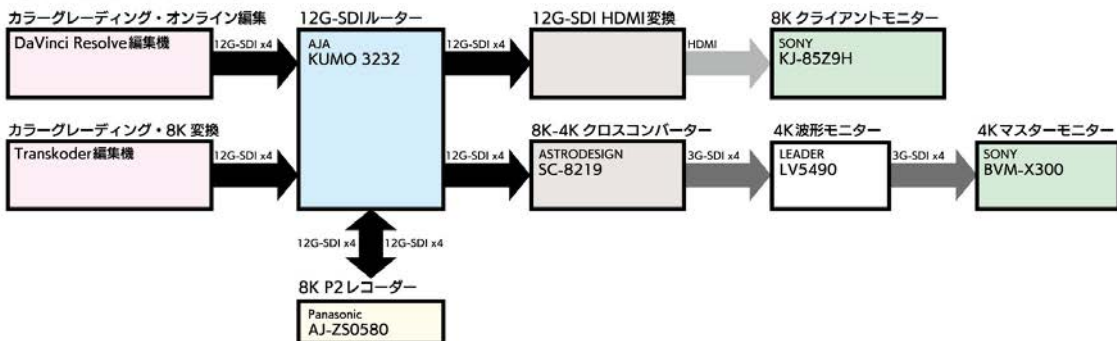
結果的に、NiTRO SHIBUYA が 8K ワークフローを構築する上で最も重要視していた『これまでと同様のスピード感で作業できる環境づくり』の操作性という点で、AJA 製品が同社のニーズにぴったりとはまった。

NiTRO SHIBUYA 8K

8K HDR Workflow



8K EDIT Flow



株式会社日テレ・テクニカル・リソースズ ポスプロ技術センター
ポスプロ技術部 担当部長 福田豊 氏は、以下のように述べている。

「8K 編集には高速処理を可能にするマシンと、大容量かつ伝送スピードの速いストレージが必要とされており、この条件をクリアするために、システムを最適化することが大きな課題でした。今回導入したワークフローは、これまで我々が培ってきた 4K 編集での経験をそのまま活かすことができています。」

KUMO ルーターを使用することで、8K 編集室でもこれまで同様の操作性で 12G-SDI 信号の受け渡しが可能となっている。

また KUMO ルーターが持つ Salvo (一斉送信) 機能を利用すれば、複数のソースを特定の出力先に一斉送信し、スイッチング操作をさらに簡略化させることができる。この機能は、HD/2K と 4K、あるいは 8K など信号フォーマットが混在する環境での運用に最適だ。



Salvo 機能は設定を保存して、Web UI や AJA の KUMO ルーター用コントロールパネル KUMO CP2 の “Salvo ボタン” から呼び出すことができる。

KUMO ルーター 1 台につき、最大 8 つの “Salvo” を設定し保存可能。この機能により、あらかじめ設定したソースと送出先をボタンひとつで素早く呼び出せるようになる。

NiTRo SHIBUYA では、AJA の KUMO ルーター以外にも、Transcoder のビデオ I/O に KONA 5 が採用されるなど、いくつかの AJA 製品が導入されている。

福田氏「8K の設備を限られたラックスペースにおさめることに苦労していましたが、KUMO 3232-12G を導入することで、求める仕様をコンパクトに実現することができました。8K はこれからも需要が増すと考えていますので、12G や IP を積極的に導入することで効率的なワークフロー構築を目指していきたいです。」

導入機材



KUMO 3232-12G



KUMO CP

本システムに関する問い合わせ先



(株)アスク メディア&エンタープライズ
セールスサポート部(リークフェイズ)

☎ 03-4400-6159 ✉ sales@reinphase.com
🌐 www.aja-jp.com

システム設計・購入先

三友株式会社

☎ 03-6408-1451 ✉ sd@mitomo.co.jp
🌐 www.mitomo.co.jp/